耳鼻咽喉科
池園　哲郎教授　中嶋　正人講師

鼓膜の病気の治療法は最近とても進歩しています！

鼓膜の病気とは？　鼓膜に病気があると聴こえが悪くなったり、耳から水や膿が出てきたり、さらに耳鳴りの原因にもなります。鼓膜の病気には大きくわけて2つの種類があります。

・慢性中耳炎（鼓膜に穴が開いて中耳に細菌が入る）

・真珠腫性中耳炎（鼓膜がへこんで炎症が起きて耳の骨が溶ける）

それぞれどんな特徴があるか見てみましょう。

耳鼻咽喉科
池園　哲郎教授

耳鼻咽喉科
鼓膜穿孔の新しい治療法（結合組織塊留置法）を開発した
中嶋　正人講師

〈慢性中耳炎とは？〉図1にあるように鼓膜に穴が開いて音が伝わりにくくなって膿がでる病気です。急性化膿性中耳炎（風邪をひいたあと耳が痛くなる）がひどくなると鼓膜が破れて中にある膿を出し（自然排膿）炎症を治そうとする働きがあります。このときにあいた穴は自然に閉じますが、中耳炎を繰り返したり、治り方が不十分だとこの穴が閉じなくなり慢性中耳炎になります。

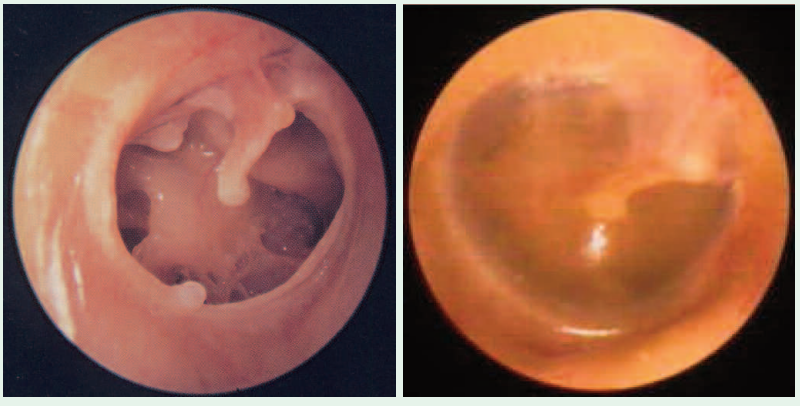

図1左は慢性中耳炎の鼓膜　右は正常鼓膜

鼓膜に穴ができると、そこから細菌が入り、膿が出てきたりジクジクしたりします。これは耳だれ（耳漏）と呼ばれています。穴のため伝音難聴（音が伝わりずらい難聴）が生じます。穴が小さいときの難聴は軽度ですが、穴が大きくなり感染が続くとその影響が内耳（耳の中の神経）にも及んで感音難聴、耳鳴りを引き起こします。

〈真珠腫性中耳炎とは？〉正常な鼓膜は太鼓のようにピンと張った膜ですが、鼓膜の一部が奥に入り込んでいくのが真珠腫性中耳炎です。図2のように入り込んだ鼓膜がさらに深部へ進むと様々な症状が出ます。強い炎症や骨破壊を生じて、耳だれ、難聴、めまい、耳鳴り、顔面神経麻痺などを合併し、一般的な慢性中耳炎よりも重い疾患です。そのまま放置すると髄膜炎や脳膿瘍を起こし生命に関わる場合もあります。先天性に発症する真珠腫も知られています。

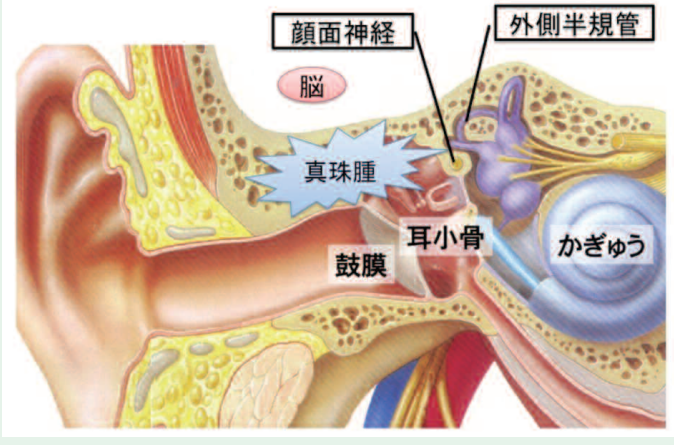

図2　真珠腫の模式図

◆診断と検査

鼓膜をよく見ることが第1です。当院外来には高性能顕微鏡があり、とても細かいところまで観察できます。穴の大きさ、膿があるかどうか、発赤の有無、肥厚、石灰化、真珠腫のできぐあいなどをみます。側頭骨ターゲットCTで耳小骨の状態、真珠腫の進展範囲、骨破壊（内耳瘻孔や硬膜露出の有無）、を診断します。

聴力検査は伝音難聴、混合難聴の程度を把握するために実施します。鼓膜の穴を和紙などで塞いで聴力が改善するか調べると耳小骨（中耳にある小さな3つの骨）が音を伝える機能が正常かどうか判断します（中耳機能検査）。

◆治療

〈保存的治療〉我々の外来では、なるべく手術をしなくて済むように、先ずは保存的治療を行ってます。慢性中耳炎では感染をできる限り軽く

するのが目的です。外耳道・中耳腔の清掃、耳洗、耳浴（抗生物質を耳に入れてしばらく横になっている）などを行います。急性増悪のときには抗生物質を内服します。このような治療法で鼓膜の穴が無事閉じてしまう場合もあるのです。

真珠腫性中耳炎では、へこんだ鼓膜の内側に溜まったもの（垢と同じ成分でデブリと呼ばれる）を綺麗に取り除くようにします。真珠腫の型によってはデブリを除去することで、手術を回避できる場合があります。年に数回定期通院をするだけで良くなります。

〈外科的治療〉保存治療で良くなりそうも無い方のみ手術治療を考慮します。痛くないように全身麻酔を受ける方が殆どですが、局所麻酔で短期入院も可能です。手術的治療には年齢制限はなく高齢の方でも心配ありません。

慢性中耳炎の手術方法には大きく分けて2つの方法があります。先ほど説明した中耳機能検査の結果が良好であれば「鼓膜形成術」を行います。耳の後ろの皮下から組織を採取して穴を閉じるのですが組織を塊にして留置する新しい方法を中嶋正人講師が開発しました。この方法では穴が閉じる確率はほぼ１００％になっています。

中耳機能検査で難聴が改善しない場合、穴が大きい場合、炎症が高度の場合に「鼓室形成術」を行います。耳小骨連鎖の再建をすることで聴こえも改善します。

真珠腫性中耳炎の場合は術後再発が問題となり、より熟練した技術による慎重な手術が求められます。真珠腫の完全除去、耳小骨連鎖の再建と鼓膜の形成を行います。重症真珠腫では2回に分けて手術を行う段階的手術も行われています。最近では手術方法が改良されており難聴もかなりの率で改善します。我々が開発した骨パテ軟骨併用型外耳道形成術を行えば手術の後に水泳もできるようになります。

受診のポイント

以前は耳の手術を受けると聴こえが悪化したり、顔面神経麻痺などが生じて怖いものと思われていましたが、近年、治療の技術が格段に向上しました。聴こえの悪い方、今まで中耳炎だけど治らないと言われた方、過去に手術を受けたけれど治りが今ひとつなので相談したい方、是非耳鼻咽喉科を受診してください。

お問い合せ：耳鼻咽喉科

☎：０４９（２７６）１２９６